

令和2年度「市長と語り合う会」について（小野地区）

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
令和3年 1月12日（火）	小野公民館	19:00～20:00	22	4	26

- 市側出席者
市長、副市長、政策企画局長、総務部長、秘書課長

2 会の概要

- 開会（秘書課長）
 - ・ 会の趣旨説明
 - ・ 出席者紹介
- あいさつと市政運営の説明（山本市長）

1. 令和2年度の当面の課題・状況

約1年前に施政方針をまとめたとき、最後の1行だけ新型コロナウイルスについて触れたが、ここまで状況がひどくなることは想定していなかった。そうした中でもコロナ後に必要となるであろう取組みについてしっかり準備していかなければならない。

・萩・石見空港

東京線の2往復を維持するための発着枠政策コンテスト審査の年だったが、令和5年3月までの継続運航が決定した。ただ現状は新型コロナの影響でほぼ1日1往復となっていたり、1便も飛ばない日があるなど、市として利用促進の旗を振りにくい状況である。

・山陰道

「益田～萩」のうち須子から小浜までの「益田西道路」新規事業化が、昨年度～今年度の山場であった。幸い事業化が決定し、中西インターチェンジ（仮称）から小浜へと抜けるルートとなり、臨空ファクトリーパークへのアクセスが容易になるなど物流の活発化が期待される。さらに次の「小浜～田万川」の事業化が早急に進めば、益田市を生活圏とする田万川・須佐からも利便性が高まる。引き続き国交省等の要望を積極的に行っていく。

・日本遺産とガーデンツーリズム

市内の中世関連の史跡が、「中世日本の傑作益田を味わう～地方の時代に輝き再び」というストーリーが認められ2年越しの申請で日本遺産に認定された。3年間は国の補助も手厚くなされるので、これの活用と地元機運の盛り上がりとで観光振興に繋げていきたい。また国交省が認定するガーデンツーリズムに、中国地方にある雪舟関連の庭園等を巡る計画が「雪舟回廊」として登録された。これまで限定的な知名度だった市の歴史遺産をこうしたことを契機に広め、地元の方が誇りをもって発信できるようにしていきたい。

・東京オリンピック・パラリンピック

残念ながら開催延期となり、事前キャンプも1年延期された。アイルランド自転車チームのホストタウンとしてキャンプを支え、選手と市民の交流、またその後も幅広い交流が続けられるよう考えていた。新型コロナの現状からは今年の開催も厳しく、また開催されても市民との交流は限定的にならざるを得ないと考えるが、いずれにしてもそれ以降のアイルランドとの友好関係構築にはしっかり取り組んでいきたい。アイルランドは発展性があり、国民性もフレンドリーな国である。

・新型コロナウイルス

結果的に今年度最も重要な課題となった。感染予防の注意喚起に力を入れてきたが、市民の皆様のご協力のおかげで、感染者は8月に1名判明したのみである（1月12日現在）。イベントや集会の中止の判断は、皆様にとっても断腸の思いであったことと思う。旅行業・飲食業等への影響も甚大で、交付金等の手当てを適切に行っていききたい。今年度最後の大事な仕事がワクチン接種への取り組みになるが、できるだけ多くの方への接種をもって集団免疫獲得を図っていききたい。

2. 連携の具体化と結実

事業・施策の進め方について次のとおり掲げている。

・SDGsに関する連携

SDGs（持続可能な開発目標）は2030年までに世界共通で達成することを目指した17の国際的目標で、2015年に国連で採択された。「飲み水の確保」など発展途上国向けの目標もあるが、日本にとって重要なものもあり、市の課題、地域の課題と捉えて様々な団体・個人とSDGsを介して連携していく。

・島根県との連携

県西部の発展、東西の格差是正が大事であると丸山知事も述べている。また観光テーマとして新たに「美肌県しまね」を強く打ち出している。美都・匹見の温泉やわさび・ゆずなど美肌効果のある食物をどんどん発信して、観光振興や地域づくりに結び付けていく。

・民との連携

地域住民の皆様や民間企業、様々な団体などと連携して、住民の皆様の活力を最大限生かし、行政単独ではなかなか行き届かない諸課題に取り組んでいく。小野地区でも地域自治組織が立ち上がり、様々な取り組みをしていただいている。

○ 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は別紙のとおり。

- ① 地域要望に係る体制について
- ② 柿本人麿関連について
- ③ 道の駅の計画について
- ④ 新型コロナウイルスの検査について
- ⑤ 市民の生活満足度について
- ⑥ 小野中の今後について
- ⑦ チャイナリスクについて
- ⑧ 交通・医療にかかる地域での対処について
- ⑨ 地区の診療所について

○ 閉会（秘書課長）

令和2年度「市長と語り合う会」

〔会場 小野公民館 開催日時：令和3年1月12日（火）19:00～20:00〕

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 地域要望に係る体制について 千葉県松戸市にある「すぐやる課」は、市民が困りごとをどこに相談したらよいかというところから支援する。これを益田市でも作り、公民館に退職後の職員を配置するなどして実現してほしい。</p>	<p>① かつては地区振興センターに正規職員を配置していたが、その後整理をかけており（会計年度任用職員等対応）、再配置は難しい。現在は地域自治組織の整備を進めていただいております。住民主体の課題解決に対して市が必要な支援を行うという形を主としている。</p>
<p>② 柿本人麿関連について 雪舟に比べ柿本人麿についての力の入れようが弱い。戸田には生誕地があり、2年後は没後1300年の式年大祭がある。老朽化した神社の修繕に寄付を要する。十分な支援をしてほしい。</p>	<p>② 市にとって人麿も重要であり、式年行事についてももしっかり考えていく。顕彰会で色々と計画されており、市も連携し、必要な予算も付けて盛り上げていきたい。</p>
<p>③ 道の駅の計画について 道の駅についての進捗状況が聞こえてこなくなっている。現状は。</p>	<p>③ 山陰道の整備にあわせ、久城から高津の間に整備する基本構想を掲げた。益田自慢の食を柱にしているが、運営事業者の確保進んでいない。また国の方針転換（防災拠点化、高齢者対応）などがあり、構想を練り直している。</p>
<p>④ 新型コロナウイルスの検査について 市におけるPCR検査の実施状況はどうか。</p>	<p>④ 県内で判定できる施設は松江市の1か所しかなく、8月の判明の際は松江のクラスター発生と重なり発表が遅くなった。県西部にも設置を要望し、県で検討されている。</p>
<p>⑤ 市民の生活満足度について 市民の満足度は何%か。全国平均は64%、邑南町は84%だとあった。ここにスーパー公務員がいて地域を盛り上げている。コロナ禍で都市から田舎への移住が増えるという考えがあり、住む人の満足／不満足を把握することが大事になる。</p>	<p>⑤ 益田市で調査があったかどうか把握していないが、子育て世代の負担軽減のため未就学児医療を無償化した他、中学校までの3割負担を今後1割とするなど市民満足度を重視している。また「カタリ場」事業で市内のいいところに気づいてもらうことなどを行っている。コロナ禍では都会は危険が多いが、島根は全国で唯一死者が出ていないなど安全度が高く、上手く発信していきたい。</p>
<p>⑥ 小野中の今後について 小野中がいずれ廃校になるだろうが、跡地活用を今のうちに考えるべきでは。地域の起業拠点化などへの活用を。</p>	<p>⑥ 学校再編計画において中学校は、一定規模以下は統廃合の対象と考えており、小野中は高津中との統合案が出ている。そうなるとおっしゃるとおり空き施設の活用を考えることとなる。地元の意向をしっかり調査したい。</p>
<p>⑦ チャイナリスクについて IoT推進や、土地等資産の取引に関し、いわゆる「チャイナリスク」について、人・モノ・ソフト等関連でどういう認識を持つか。</p>	<p>⑦ スマートシティ構想のもと、実証実験の場として市の資産・CATV網などを提供しており、外国企業でも問題ないと判断されれば門戸を閉じることはしない。水源土地の購入などの問題は、市としてより国の立法を待つべき問題と捉えている。</p>
<p>⑧ 交通・医療にかかる地域での対処について 地域交通・医療を地域自治組織で取組む中で様々な支障があり、行政責任として取り組ん</p>	<p>⑧ 行政と地域自治組織がそれぞれ担う役割があり、漏れや重複を防ぐために日常的に対話が必要と思う。JR、バス等交通については</p>

<p>でもらいたいと思うがどうか。</p> <p>⑨ 地区の診療所について 診療所の開設要望を進めているが、聞いていないか。</p>	<p>課題が多い。医療は、酒井医院が閉じて以降ご不便も多いと思うが、現在の定めでは無医地区とはなっていない。いずれにしても地域との対話で何らかの改善を図っていきたい。</p> <p>⑨ 聞き及んではいるが、市全体としては無医地区とされた地域からの対応となるので、違う形での対応となることをご理解願いたい。</p>
--	--